「成城美学美術史」

【第30号】	2024年3月 発行
小倉健太郎	アニメーションという語はいつから作品ジャンルを指すようになったのか：H. A.ポタムキン（1900-1933）のアニメーション観
山下純照	閉じることで開く—前川知大『天の敵』における複合的時間構造の効果—
杉崎友哉	アンディ・ウォーホルの連作《レディース・アンド・ジェントルメン》について—パロディとしての肖像画をめぐる考察—
山本 樹	ボローニャ、タナーリ家のアレクサンドロス大王伝—ルドヴィコ・カラッチの作品群とその「インヴェンツィオーネ」をめぐる一考察—
【第29号】	2023年3月 発行
柳川　太希	西谷啓治のいけばな論：いけ手と切り花が一つになる
赤塚　健太郎	バロック時代の撥弦楽器演奏における指の2つの働き ——J. S. バッハのソナタ ト長調BWV1027を事例として——
岡村　嘉子	1878年パリ万国博覧会トロカデロ宮における二つの日本美術展示の位相 ——エミール・ギメと日本万博事務局
高橋　健一	アルカディアの墓の詩学——プッサンと牧歌の水脈——
藤沢　知綾	山本芳翠≪猛虎一声≫の解釈を巡って ——芳翠≪虎石膏像≫と師ジャン＝レオン・ジェロームの作品制作に基づいて——
清水　亮佑	中近世における漢画系雲龍図の様式的展開
【第28号】	2022年3月 発行
三島　理	数学者ブラームス　—カノン的模倣に関する数理的技法の利用
喜多崎　親	壁のない幻視　—ゴーガンの《説教の幻視》とオーリエの象徴主義
福岡　仁	彫刻化する柱　—オーギュスト・ロダン作《フナイユの柱》に於ける主題と象徴主義的手法
村上　幸奈	山形・宝積院十一面観音菩薩立像再考
吉井　大門	山川秀峰の生涯と画業　—表現の模索から「舞踊画」へ
塚田　美香子	ピカソのモダニズム的古典主義　—前衛と伝統が共存する創作の10年
【第27号】	2021年3月 発行
三島　理	メンデルスゾーンが受けたピアノを用いる変奏曲の作曲教育とその実践 —音程カノンの構成原理の観点から
大城　茉里恵	ビアズリーとロココ： 『髪盗み』の挿絵に表れるロココ趣味とその背景について
高橋　健一	アルカディアのアトリエ —カルロ・マラッティ晩年の自己表象とその環境—
【第26号】	2020年3月 発行
小倉　健太郎	「開かれた作品」としての公演：AKB48劇場公演の詩学
津上　英輔	メーイ美学思想の集大成としてのカタルシス解釈
和田　寧路	超芸術トマソン再考——「不適合に見える」実用品は機能的に美しいという視点から
野田由美意	ナチス時代における「若きラインラント」の作品の蒐集について
【第25号】	2019年3月 発行
大城　茉里恵	オーブリー・ビアズリーによる『サロメ』の「無関係」な挿絵
喜多崎　親	ヘシオドス変奏 ——ギュスターヴ・モローの作品に見るインスピレーションの寓意——
【第24号】	2018年3月 発行
河合　大介	《模型千円札》理論の形成主体に関する考察—赤瀬川原平著作の分析を中心に—
赤塚　健太郎	バロック時代のメヌエットにおける「終止前のヘミオラ」と、ヴァイオリンのフランス風運弓法の関わりについて

喜多崎　親	ミュシャのレトリック
塚田　美香子	ピカソの1920年代初期作品に見るメランコリー ——身振りと意味をめぐる問題
野田　由美意	オットー・パンコックの木炭画連作《受難》―制作の背景―
平野　文千	ホアキン・ソローリャ《漁の帰り》―ナチュラリズムを中心に―
【第23号】	**2017年3月 発行**
匂坂　智昭	感性化アーカイヴとしてのアール・ブリュット・コレクション
山下　純照	「もどき」の概念の現代演劇への適用可能性 ― タールハイマー演出『エミーリア・ガロッティ』を中心に ―
篠原 聰	研究ノート　鏑木清方筆《刺青の女》をめぐって ～烏合会と郷土会を繋ぐもの～
野城　今日子	研究ノート　舟越保武《星を仰ぐ青年の像》について
佐藤　仁	博士論文の要旨1　教皇ウルバヌス8 世の治世における蜜蜂表象に関する研究 ：ベルニーニの《バルダッキーノ》とサン・ピエトロ大聖堂の装飾事業を中心として
【第22号】	**2016年3月 発行**
清水　友美	明治期・大正期における裸婦像の変遷 ―官憲の取り締まりを視座に―
石鍋　真澄	ベルニーニの2つの伝記、《コスタンツァ・ボナレッリの肖像》をめぐって
喜多崎　親	物語らぬ挿絵 ―オディロン・ルドンの版画集『幽霊屋敷』の方法―
【第21号】	**2015年3月 発行**
赤塚 健太郎	G. ムッファトの伝えるヴァイオリンの運弓法と当時の舞踏の関わりについて ―強拍の提示における緊張と弛緩の過程を手がかりとして―
小河原 あや	エリック・ロメール監督『獅子座』の眼差し・歩行・カメラ移動・音楽の方向性の「形式」： ヒッチコック的テーマはいかに創られるか
小倉 健太郎	アニメにおけるインデックス性
岡村 嘉子	1963年プティ・パレに現れた禅画 ―「日本古美術展」における禅画出品の意図をめぐって―
石川 育子	2 つの愛（カリタス） ―ティントレットのマドンナ・デッロルト聖堂内陣対作品の意味についての一考察
鈴木 一生	コロー《ナルニの眺め》の制作意図に関する一推論
塚田 萌菜美	ジョセフ・コーネルにおけるデペイズマンからの逸脱 ―《メディチ・スロットマシーン（オブジェ）》の考察から
【第20号】	**2014年3月 発行**
木村 建哉	スワッシュバックラー映画としての『ルパン三世　カリオストロの城』： 宮崎駿における古典的ハリウッド映画の伝統の影響
瀧川 美生	オスマン帝国ドーム式モスク建築における装飾の重要性： スィナンのセリミイェ・ジャーミィを中心に
佐藤 仁	教皇ウルバヌス8世とミケランジェロの《ピエタ》をめぐって
福地 勝美	セシリア運動とオットー・ヤーン
【第19号】	**2013年3月 発行**
津上 英輔	アリストテレース『詩学』の資料伝承と ヴェットーリによる ὁ υ θ μ ό ς 概念の誤解
石津 秀子	デューラー作《メレンコリア》と《神殿の中の12歳のイエス》
匂坂 智昭	宙吊りになる感性： アール・ブリュットにおける違和感
小倉 健太郎	インデックスとしての機能を喪失する写真1.0： C.S. パースに従って
小宮山 晶子	リヒァルト・ワーグナーの「モティーフ」と， ドラマにおけるその用法について ——音楽を手段としたドラマ表現とは何か——
赤塚 健太郎	フランス風クーラントの舞踏リズムの研究
【第17・18号】	**2012年3月 発行**
津上 英輔	“哲学と文献学の新たな仲違い”： プラトーンの詩人論を解釈するコリンウッド
福地 勝美	セシリア運動に及ぼしたE．T．A．ホフマンの影響について： A. F. J. ティボーとの関連を通して
金澤 清恵	日本におけるジョルジュ・ルオーの紹介、 あるいはその受容について
千葉 麻衣子	ピーテル・ファン・ラール（通称バンボッチョ）の 風景表現：その様式の源泉と人的交流
Mio TAKIKAWA	Hagia Sophia and Sinan’s Mosques： Structure and Decoration in Süleymaniye Mosque and Selimiye Mosque

Sayuri HARA	Adam Style in English Country Houses: Function and Decoration in the Georgian Era
Aya OGAWARA	Time and Memory in the Moving Image: Yubari on Film
【第16号】	**2010年3月 発行**
津上 英輔	運動を管理する音楽: 服部正作曲＜ラジオ体操第一＞の分析
福地 勝美	F.X.ヴィットとJ.E.ハーベルト: セシリア運動内のドイツ派とオーストリア派の対立をめぐって
中村 周子	フェリックス・ヴァロットンの室内画における開口部の表現について
田中 伝	蓮社図の成立とその周辺
大澤 慶子	鎌倉・教恩寺阿弥陀三尊像と快慶
【第15号】	**2009年3月 発行**
津上 英輔	傲慢という名の過ち: アリストテレース『弁論術』第2巻1378b23-35における「ヒュブリス」
石鍋 真澄	ピエロ・デッラ・フランチェスカの祭壇画　伝統と創意
佐藤 仁	教皇ウルバヌス8世と大天使ミカエル: ≪バルダッキーノ≫上部構造に関する一考察
金澤 清恵	ポール・セリュジエ作≪タリスマン≫とナビ派の成立を巡って
河合 大介	インスタレーション・アートの歴史化の（不）可能性 ーミニマリズムにおける脱歴史の後にー
佐藤 直子	「箱根権現縁起絵巻」の景観表現をめぐって
野田 由美意	パウル・クレーの1916-1921年の文字絵 ー作品の構成、テクストの形式と内容を巡る考察ー
【第14号】	**2008年3月 発行**
津上 英輔	感性的認識の完成: バウムガルテン『美学』における美の説明
小川 里枝	チェコのジャポニスム 19世紀末～20世紀初頭のグラフィックを中心に
古川 法子	20世紀初頭におけるコローの人物画の受容について
【第13号】	**2007年3月 発行**
出 佳奈子	「オルサン ミ ケーレの聖母」と14世紀フィレンツェにおける「ヒワを手にする幼児イエスと聖母」図の流布について ーヒワの意味をめぐってー
佐藤 仁	ベルニーニの<<バルダッキーノ>>のミツバチをめぐって ー17世紀の自然科学研究を通してみるバルベリーニ家の紋章ー
嶋本 亜未子	ブロンズィーノのエレオノーラ礼拝堂壁画装飾について ー祭壇画の図像プログラムを中心にー
篠原 聰	『やまと新聞』と鏑木清方 明治期新聞小説挿絵の一断面
【第12号】	**2006年3月 発行**
渋谷 拓	17世紀フランスにおける観察の距離の比喩
田中 佳佑	フィチーノの *Quid sit lumen* (c.1476) 翻訳と註解
【第11号】	**2005年3月 発行**
津上 英輔	≫factum est≪ heißt ≫geschehen ist≪ ハイデガー『芸術作品の根源』への一注釈
渋谷 拓	ロジェ・ド・ピールの絵画論における因果性の観念について
海老澤 るりは	奈良時代における吉祥天像の着衣とその源流に関する考察 東大寺塑像・法隆寺塑像・薬師寺画像を中心に
【第10号】	**2004年3月 発行**
村松 香代子	インド仏教美術における二つの半人半馬（ケンタウロス）像について ー死せる魂を守護する者とリグ・ヴェーダの神ー
石津 秀子	デューラー作≪書斎の聖ヒエロニムス≫に隠れた「反キリストの墜落」
鈴木 晃代	印象派展及び印象派とマッキアイオーリとの関わり ーデ・ニッティスを中心とした考察
内野 博子	写真の写真性とは何か
【第9号】	**2003年3月 発行**
趙 声良	敦煌隋唐壁画説法図に表れた「聖樹」
渋谷 拓	ロジェ・ド・ピールの絵画論における鑑賞の距離に関する試論
富岡 進一	J.M.W.ターナーにおける光と色彩
【第8号】	**2002年3月 発行**
趙 声良	敦煌北朝壁画説法図に表れた「聖樹」

金 寅圭	越州窯青磁に対する基礎的考察 ー中国・日本の文献にみえる越州窯青磁を中心にー
渋谷 拓	初期セザンヌ作品の表現主義的評価に関する一考察 ー絵画のマチエールとその受容の仕方を巡ってー
【第7号】	**2001年3月 発行**
本田 諭	園城寺唐院智証大師坐像（御骨大師）考
冨澤 治子	ビアズリー・ガーデン ー庭園と翻案された主題とによる新たなイメージ表現ー
早川 恭只	映画についての言説 ーロラン・バルトのクリスチャン・メッツへのオマージュをめぐってー
【第6号】	**2000年3月 発行**
田中 修二	大塚楠緒子の早世と、新海竹太郎のデザイン
荻田 麻子	オスカー・ココシュカ作≪迷える騎士≫ ー騎士の図像的源泉を中心にー
田中 知佐子	敦煌莫高窟の「龍車・鳳車に乗る人物図」と「天井画の説話図」についての一考察 ー「託胎・出城図」との関わりを交えてー
【第5号】	**1997年11月 発行**
小林 晶子	ピエール・ボナール（Pierre Bonnard 1867-1947） ーその装飾絵画からみたアンチミテー
畠山 平	自然7度と「ブルー・ノート」 「実験的調律」と歴史的・民族的音律との関係についての考察
【第4号】	**1997年2月 発行**
田中 修二	豪農と彫刻家 ー彫刻家大熊氏広と≪林勇蔵像≫
三澤 博美	C・R・マッキントッシュのドローイング
【第3号】	**1995年12月 発行**
田中 修二	入江波光の法隆寺金堂壁画模写について
北川 恵美子	ジャン・クザン（子）『運命の書』 ーその解題と考察ー
【第2号】	**1994年12月 発行**
坂入 和子	ヒエロニムス・ボス≪「最後の審判」の祭壇画≫における煉獄
新 佐智子	ヴィーコの『新しい学』と美学
秋山 美和子	長谷川等伯筆『楓図』と『松林図』について
杉田 真珠	日本におけるセザンヌ紹介
【第1号】	**1994年2月 発行**
原田 満	ガダマー解釈学における＜戯れ＞
佐野 陽子	醜からの逸脱 エマニュエル・レヴィナスにおける否定性の問題
北川 恵美子	『画像ドキュメンテーションの世界』